



Title	保健文化賞に輝く熊谷博士：防疫に生涯を捧げた至誠の人
Author(s)	山上, 茂記
Citation	大阪公衆衛生. 1963, 11, p. 13-13
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84676
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



保健文化賞に輝く熊谷博士

防疫に生涯を捧げた至誠の人

： 青雲の夢を大阪に

熊谷謙三郎博士はその履歴が示す通り伝染病の予防、治療のためにその生涯を捧げ、現在もなお情熱を燃しつづけている人である。

1888年、山形県最上川の上流、越後境の宮宿町に生る。明治40年中学を卒業、第二高等学校の入学試験に失敗、東京に出て、二松学舎（三島毅塾）にて受験勉強をした。当時大阪高等医学校とその校長、佐多愛彦の評判を同僚から聞き、来阪、大阪高等医学校に入学した。卒業後、佐多博士の門に入り病理学を専攻。後、竹尾結核研究所、佐多所長の下に結核の研究を行った。当時買入れた幼弱モルモットがわずか1カ月の間に大半死亡したのでその原因を探究し、ビタミンC欠乏症なることを明らかにした。＊扁食に因するモルモットの病変について、および、実験的メルレル、バロー氏および脚気様疾患について、によって、大阪医科大学より学位を受けた。学位番号は第4号であった。

： 熱帯病研究でドイツへ

大正11年8月、大阪市立桃山病院長市川定吉氏が腸チフスの為倒れ、後任として小沢修造教授が就任された。これを助けるため副院長として就任。大正12年7月から13年9月までドイツ・ハンブルグ熱帯病研究所に留学。帰朝後同年11月桃山病院長に就任。以来、30余年、昭和30年9月桃山病院名誉院長となるまで伝染病患者の治療、および伝染病の研究に専心従事した。

その間、伝染病院の近代化建築、熱帯病研究所の創設を行ない、戦後は衛生局長として発疹チフス、痘瘡の防疫に成功、大阪市立医科大学長として基礎学舎の建設、新病館の建設等に努力し、今

日の市大医学部の整備に貢献した。第27回日本伝染病学会会長をつとめ、現在同学会理事である。

氏は健康に恵まれ、性温和で初対面者にも常にいんぎんで感激せしめる。また環境に順応することすみやかで、かつて軍国主義華やかな時には戦斗帽をかぶり、高い壇上から敬礼していたが、敗戦と共に転向、私は戦争被害者ですと、戦争絶対反対主義一組合運動華やかなになれば、私も俸給生活者だから労働者ですとといったつ、熱心なロータリアンでもある。

： 伝染病一途に生涯を

趣味は読書、伝染病一途に生きぬいて来た人で、他に特別なものがあるとは聞かない。煙草はのまないが、ビールは大好物、少し酔がまわると達者な口がますます達者になる。

家庭は久子夫人との2人暮らし、令息2人、令嬢1人は共に立派に成人し、別に家庭をもち、社会的に活躍しておられる幸福な家庭である。

ペスト、痘瘡、コレラの様な古典的伝染病が時々文明国を脅し、これらの疾患を知る医師の少なくなつて来た今日なお一層貴重な存在としてその光を輝かしつつある。

今度の保健文化賞の受賞は全く当を得たものと、審査員諸氏の高見に對し敬服する。

現住所

東住吉区田辺東之町
8丁目25番地

大阪市立桃山病院長

山 上 茂 記



《熊谷博士の近影》